

石井さんの思い出

JJ1SXA/池

JA1UPE 篠原さんの思い出の記事「早い旅立ちをした篠原さんの思い出」を書き上げて、ほっとしていたら、また衝撃のニュースが飛び込んで来た。

SXB の弟の怪我の見舞いに行った帰りのモバイル運転中、7K4ADK/松本さんから携帯に連絡が入った。

石井さんの具合は、FB の本人の書き込みで知っていましたが、体調が芳しく無く、検査入院をした頃からその後の経過を注視していたところです。

声が出せないから、無線ができない、でも CW という手があるとの書き込みにも、私はすかさず、そうだ CW が良いとインフォを入れました、声が出しにくいと言っているのに、そちらの見舞いよりも、優先したインフォは不味かったかなと後で反省。

最近の書き込みでは、症状が悪化しているようなものは無く、普段通りの生活に戻り、病気のことは気にすることは無いかと勝手に想像していました。

亡くなった前々日、忘年会への出席はどうか？とメールを入れたが、返事は無かった、メール着信の頃は、生死の淵を彷徨っていたかも知れない、ごめんなさい。

思い出せば、近隣への BCI で 6m の電波が出せないと言うのに、無理やりロールコールのキー局をお願いし、引き受けていただき、移動局での運用で活動してもらいました。

また、電波伝搬実験では、サポート局としてコントロール局に随行してもらいました、野外活動はお手の物で、それは、若い頃からの山男の延長で考えれば当たり前でしょう、キャンプ用品も多数所持していた、前の車には、それ等の他、災害用品、災害時非常食等も積み込み、水さえあれば、一家で 1 ヶ月は生活できると言っていた。

山行の記事を、私は良く読んでいた、大菩薩への時の記事で、途中、「…何でこんな馬鹿なことをしてるんだ、車でもっと先まで行って、それから徒歩にすればよかったんだ、いやいや、この苦しさの先の楽しみのために歩いているんだと、自分に言い聞かせ、我慢、我慢…」とのくだりなど、人生観の表れかとも言える。

また、3 アマ受験を強引に迫ったら、ハムフェア一会場での国家試験受験で見事一発で仕留めた、その後、池さんに薦められたお蔭で良かったと言ってくれた、ついでに、1 アマをとの薦めには、もう一寸 CW を勉強してチャレンジしますと言っていた（この頃は、緩和されたといってもまだ CW 実技試験があった）、元々高速の CW を聞くのが好きで、憧れがあるとも言っていた。

昨年の忘年会には、久しぶりに参加してもらい、会場内では、各局と和やかに談笑する姿があった、今年はそれを見られない、ただ、残念だけでは済まされない。

篠原 OM も石井 OM も若い、まだまだ先の人生を楽しめるはずが、無残に癌に冒されて逝ってしまった、心よりご冥福を祈る。 73！